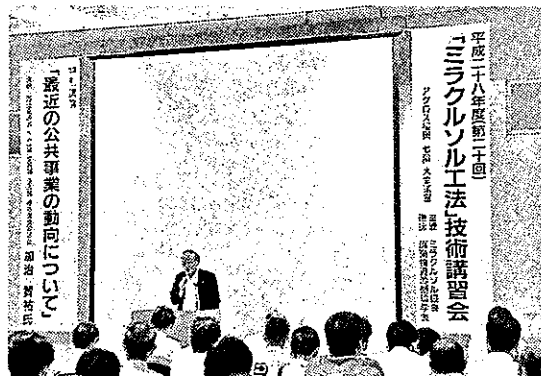


環境負荷低減技術を説明 ミラクルソル協会が講習会

【佐賀】ミラクルソル協会(原裕理理事長)は



九州地方整備局企画部技術調整管理官加治賢祐氏が講演。建設業界は、少子化や今後到来する高齢化による、将来の担い手の育成・確保と生産性の向上が喫緊の課題とし、国が行っている建設生産システムの改善を目指すi-Constructionの取組み等を紹介した。

25日、福岡市のアクロス福岡で平成28年度(第20回)「ミラクルソル工法」技術講習会Ⅱ写真Ⅱを開催した。会場には官公庁やコンサルタント、建設業者、協会会員ら約200人が参加、環境負荷低減技術等の説明に熱心に耳を傾けていた。

冒頭、原理事長は「温暖化が進むなか、今後、環境に及ぼす様々な影響が危惧されている。建設業においても環境への負荷を低減する工法の検討や評価の必要性があると思っている。この講習会が仕事の一助となるよう期待している」とあいさつ。

講習会では、特別講演で「最近の公共事業の動向について」と題して、

原理事長は「多目的環境材料ミラクルソルの環境負荷低減技術」と題して講演。ガラス廃材を再資源化した多目的環境材料ミラクルソルを利用したの環境土木・環境緑化工法への適用、具体的にはF.W.G・透保水性舗装工法、グリーンペイブメント工法を説明した。更に、F.W.G・軽量盛土工法での災害復旧事例、屋上緑化やF.W.Gウッドチップ工法についての環境負荷低減建設技術も紹介した。

最後に、ミラクルソル協会顧問で佐賀大学低平地沿岸海域研究センター長荒木宏之教授が「ミラクルソルの魅力―水環境から異分野まで」と題して講演した。

技術講習会はCPDS認定講習会でのユニットが与えられる。